

『児童市議』鋭い質問

議会体験 教育、誘客 10人真剣 大野

小学6年生が議会を体験する「大野市子ども議会」が18日、市役所内の議場であった。市内全校の代表10人が「議員」となり、学校再編や人口減少対策など大野の将来を見据えた質問を投げ掛けた。

理事者席には岡田高大市長や松田公二教育長ら14人が座り、市議らがオブザーバーを務めた。議長役の井上鈴菜さん(有終西)が実際の電子採決に基づき会期を宣言しスタート。子どもたちが順番に質問席に立った。

木下蓮土君(有終東)は市教委が今年1月に示



ら2校とする計画に「賛成でもあり反対でもある」と述べ、登下校の手段や学校建設地を尋ねた。岡田市長は「より良い教育環境で、より多くの友達と充実した学校生活を送ることができるよう計画を立てた」と説明。登下校の手段にスクールバスを挙げ「コースを工夫したり、台数を下校時刻に応じて増やしたりすると聞いている」と話した。

石神に(上庄)は地元地域の伝統を紹介し、学校再編や誘客に向けた市のPR方法について質問した。出番を終え「みんなで話し合いながら大野市を良くしていくこととしていることが分かった。緊張した」と話していた。

(栗原愛)

岡田市長らに質問を投げ掛ける児童 18日、大野市役所